

第1学年 算数科学習指導案

1 単元（教材）名 かたちあそび（算数）

2 研究主題との関わり

- ・身の回りにはいろいろな箱の形があることに気付くようにする。 （生活の場面）
- ・箱の仲間わけから、立体の特徴を意識することで、図工の工作のさまざまな部品として使えることがわかる。 （教科等横断）

3 本時の学習指導

（1）目標

箱などの身の回りの具体物から、形のみに着目して、立体図形の特徴をまとめることができる。

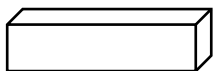
【思考力、判断力、表現力等】

（2）展開（3／4）

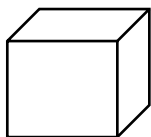
学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◎評価 ☆教科等横断 ★生活の場面
1 本時の課題をつかむ。	みんなが持ってきた箱を使っていろいろな物を作りましたね。どんな箱をつかったのかな？	○前時の活動を振り返り、いろいろな形の箱をどのように使ったか想起させる。 ★使っていない形についても、そのほかにどんな立体があるか教室や身の回りで探して、意欲を高める。
にているところをみつけて、なかまわけをしよう。		
2 課題をつかみ、課題への見通しを持つ。		○集めてきたさまざまな箱は、積んだり転がしたりできるものや、向きによって見え方や使い方が違うことから仲間わけの見通しを持たせるようにする。
3 なかまわけをする。 （個人）		○箱をさまざまな方向から見たり触ったりさせながら、形の機能や特徴に着目させる。
4 それぞれが考えた仲間わけはどこが同じだったかを話し合う。（個人→ペア）	○立体図形の特徴 ・はこのかたち ・さいころのかたち ・つつのかたち ・ボールのかたち	○外観以外に着目していたり、見方に困っている児童がいたりする場合は、「丸や四角はあるかな。」「転がるかな。」「積めるかな。」などの質問をして特徴を捉えられるようにする。 ○児童が考えた似ているところを確かめながら特徴をまとめさせる。 ○特徴から、形に合う名前を考えさせる。
5 本時のまとめと振り返りを行う。	箱が使える勉強は何ですか？ 図工ですね。今持っている箱を使って動物を作ってみましょう。	☆箱のなかまわけができると、立体の特徴を意識して、図工の「はこでつくったよ」の動物の体の部品として使えることがわかる。 ◎箱などの身の回りの具体物から、形のみに着目して、立体図形の特徴をまとめている。 【思考・判断・表現】 （発言・ワークシート）

4 板書計画

にているところをみつけて、なかまわけをしよう。



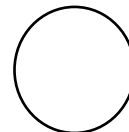
はこのかたち



さいころのかたち



つつのかたち



ボールのかたち

まとめ

はこのかたちは、たいらな
ところのかたちでわかる。
ころがる、つめるでなかま
わけができる。

